

戦争について

古堅中学校

二年

池原

紗彩

私は戦争について考えをみようと思いました。

考えた理由は「小学校のころから、総合の学習で調べたり、戦争体験者から話を聞いたり、おおぜいの人たちがかくれていた場所を見たりしてきたから」です。体験者の話を聞いた二度とおこっ、おほしくはいという思いもつらい気持ちで、私は戦争に反対する思いが強くなりました。私が戦争に反対する理由は三つあります。

一つ目の理由は「お年の罪もない人々がおおぜい死んでいくから」です。オオの赤ちからから「お年よ」までが戦争にまきこまれて死んでいくからです。一九四五の沖繩戦では、二十万人の人たちが死んでいったからです。

二つ目の理由は「家族がはなれてしまったり、戦争では、男の人や兵士として戦い

女の子は子どもをつれて逃げるということがある。もし自分がお父さんが戦争に行き、お母さんと妹と逃げる立場だったら、いやです。お父さんとはなれて逃げる子どもたちを想像すると心が苦しくなります。お父さんは兵士になり、戦いで銃や爆弾を使うので、死ぬかもしれません。その覚悟で、お父さんとはなれるので悲しいと思います。また、逃げている途中に、家族とはぐれることもあろうと思うので、悲しいです。

三つ目の理由は、戦争では、すべてのものを失うからです。家や建物、友達や家族、明るく楽しかった平和をうばいます。学校での授業、友達と遊ぶこと、楽しく遊ぶこと、家族と過ごす日常生活がくずれてしまいます。戦争をしていいことはありません。なんの得もなく、すべてを失うだけです。このような理由から、自分のためにも、家族のためにも、まわりの人たちのため、国の

ために戦争をしてはいけないとわかりました。
また、小学校の戦争についての学習では、
読谷村での戦争体験者の話をきいて、メモを
とり、戦争についての新聞をかくこともあり
ました。パリコンを使って調べる授業では、
おもに、チビチリがマとシムウがマについて
詳しく学びました。チビチリがマでは、沖繩
戦で集団自決をした人が大勢いたヤマで、シ
ムウがマは、英語を話あことが出来る人が数
人いたため、人々は助かったと言われいま

あ。その話を聞いて、シムウがマとチビチリ
がマでは生きた人と死んだ人の差が大きいと
思いました。チビチリがマで集団自決をした
人たちは、とても苦しい思いで自決し、かわ
いそうだと思いました。

戦争中のケガ人を治す、ひめゆり学徒隊に
ついては、知ることできました。二百四十名
の看護師がケガをした人々を看護したことを
知りました。

私は、小学校のころから、七十年ほど前の

沖縄戦について多くのことを学びました。戦
争の苦しさ、悲しさ、痛みなどを知らることが
できました。その戦争を忘れないためにも、
毎年、六月二十三日に、慰霊の日があります。
慰霊の日とは、沖縄戦が終了した大切な日の
こと。毎年六月二十三日の正午になると、
戦争がとくなくしてしまっただんたちのため、も
う二度と戦争をおこさないという祈りをこめ
て手を合わせます。

私は、二度と戦争をしてほいけなうと思
いました。今年の六月二十三日の慰霊の日も
祈りをこめて手を合わせようと思ひます。

Blank lined area for writing.